2025 年度（春学期）
Mount Allison University（カナダ）

R.H.（英語英文学科・２年次生）

Ⅰ．留学レポート

① 留学を目指した理由

私は、まとまった勉強時間を確保できる最後の期間である大学生の間に、将来生きていく上で必要不可欠な英語をもっと学び英語力を向上させたいと思い英語英文学科に入学しました。そして大学で日々学んでいる 4 技能の中で圧倒的に身につかない技能が Speaking だと常に感じていたこと、外国人観光客が多くいる京都で困っている海外の人を見かけても英語が話せないために声をかけられないという実体験があったこと、これらから実際に海外で英語を学び話せるようになりたいと思い、留学を視野に入れ始めました。初めは留学いいなあというぼんやりした気持ちしか抱いていませんでしたが、１年生の 10 月に学内の掲示板をたまたま眺めてセメスター語学留学のチラシを見つけたので国際課に話を聞きに行き、締め切りが 2 日後でしたが即決をしました。また、私は海外旅行の経験は何度もありましたが、家族に頼ってほとんど旅行中に英語を話さなかったため、これからの旅行ではぜひ自分が英語を使いたいということ思いも留学に挑戦した動機の一つでした。

② 留学決定から出発までの準備期間

カナダは 6 か月以内の滞在だと留学ビザの申請が必要ないため、書類関係の準備は比較的楽でした。自分に関することや留学生活に対する抱負を記入した書類を、大学に 3 枚ほど送りました。また eTA というカナダに入国に必要な電子渡航認証発行の申請を出国 2 か月前にオンラインで行いました。出国前だったので家族や国際課に確認して安心して行うことができました。留学前の勉強内容として、MASSEI のカリキュラムでは TOEIC や Writing の勉強を重点的に行うことを事前に知っていたため、あえてそれらの勉強をするのではなく日常会話で使うフレーズなどを沢山調べて覚えました。私は英語を話すことがほとんどできなかったため、空港で困ったとき、店で注文する時何を言えばいいのかさっぱり分からず非常に不安でした。そのため少しでも事前によく日常で使うであろうフレーズを覚えておくことで、現地に到着してから困らないように対策をしました。

③ 現地到着後

大学の最寄りの空港に深夜 0 時に着いたので、空港の近くにあるホテルを予約して宿泊しました。ホテルの無料シャトルバスを電話で呼びホテルに移動しました。無料シャトルバスがあるかどうかは留学前に事前に予約サイトを通してホテルと直接連絡を取り確認しました。翌朝大学からアシスタントの方が迎えに来てくれて大学に向かいました。この日はまだ他大学からの留学生が来ていなかったので、お昼ご飯を買いに一人で初めて街に出てみました。海外で一人でレストランに入り注文するのは初めての経験でとても緊張しましたが、店員さんも優しく接してくださりよい経験となりました。翌日に他の大学からの留学生も到着しオリエンテーションが行われました。それぞれの自己紹介や授業についての説明、Wi-Fi の接続についての諸連絡などを受けた後、現地の大学生が大学の施設を実際に歩いて紹介してくれました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

大学の施設は全てきちんと整備されていて綺麗で過ごしやすかったです。大学には自然が多くあり、チューリップや紫陽花などの花も植えられていました。先生方や現地の学生、アシスタントの方々もとても親切に接してくださり、異国の地で生活をしている私たち留学生の生活を常に気にかけてくれました。また、大学のある地域は 20 年の歴史がある MASSIE プログラムにより、地元の人々も日本人留学生に慣れていてスーパーで日本語で話しかけてくれる人がいたり、会計時に困っていたら助けてくれたりと、温かく私たちを迎え入れてくれました。想像以上に現地の人々が温厚で、とても快適に生活をすることができました。

◆ 授業内容、課題、試験

月曜から木曜まで毎日朝 9 時から授業が始まりました。昼ご飯休憩を挟み、曜日によって夕方 4 時や 5 時に授業が終わりました。内容は、月曜と水曜が Writing, Canadian culture, TOEIC、火曜と木曜が主に speaking の授業でした。課題は、事前に先輩から多いよと聞いていて警戒していたのですが、初めの方は週に 1 回 Writing の課題提出があるくらいであまり大変ではありませんでした。しかし授業が進むにつれ段々と課題量が増していき、授業の次の日が課題の期限であることが日常茶飯事になったり、2 日おきにロールプレイの原稿を考えたりと、かなり忙しかったです。また、与えられた事例についての研究内容を自分が授業をするような形のセミナーが 2 回あり、このセミナーの用意が頭を抱えるほど大変でした。事例の内容も社会的な問題から普段あまり深く考えないような内容まで幅広くありました。試験は毎月末に授業ごとに行われ、Writing や Listening、口頭質問がありました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

毎週金曜の午後にアクティビティがありました。大きな池でカヌー体験をしたり、消防署を訪ねて仕事体験をしたり、老人ホームを訪ねて入居者の方とお話をしたり、地元の小・中学校を訪れて日本文化や、日本人がよくやるゲームや折り紙などを伝えながら生徒たちと交流したりしました。毎週アクティビティが違い、様々な体験ができてとても楽しかったです。

⑥ 現地での住まいについて

私は大学の寮に泊まりました。寮は大学の敷地内にあるので、教室や食堂まですぐに行くことができますが、敷地が広いので日本の感覚では少し遠いと感じました。寮の部屋は一人部屋で、部屋の中にトイレ、シャワールーム、洗面台、冷蔵庫、電子レンジ、ベッド、机、窓がありました。トイレ、シャワールーム、洗面台がない部屋もあったので、非常に運が良かったです。それらがない部屋の人たちは少し離れた共用のものを使わないといけなかったので、ストレスに感じている人もいました。キッチンは各階にあり、共用でした。食事は、平日は食堂で朝昼晩毎日決まった時間に食べることができました。しかし朝は 8 時から授業が始まる 9 時までの 1 時間の間に食べないといけなかったので、朝起きるのが辛くなってきたり、メニュー(パン、ポテト、スクランブルエッグ、ベーコン)がほぼ毎日同じで飽きてしまったりして、みんなだんだん行かなくなっていきました。食事内容は、ポテトがほぼ主食と言われるだけあり毎日提供され、ピザやタコス、パスタ、ハンバーガー、チキン、ビーフなど海外らしいメニューが多かった

です。サラダとスープは毎日提供されるわけではありませんでした。味はおいしい時と微妙な時がありましたが、基本的においしかったです。土日は食事の提供がないので、地元のスーパーで食材を買ってキッチンでパスタを作っている人や、レストランやカフェに食べに行く人、持ってきた日本食を食べている人などそれぞれ自由にしていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

MASSIE のプログラム内で他の国や都市に行く絶好の機会として、7 月 1 日の Canada Day に合わせた 4 日ほどの休暇があります。私は仲良くなった留学生とケベックとトロントに行く計画を立てました。他の人もニューヨークやモントリオールなどそれぞれ自分の行きたい国や場所に行く計画を立てていました。友人と協力して飛行機とホテルを手配し、旅程を組むのは楽しくとても良い経験となりました。ケベックは元々フランス領だったということもあり、第一言語がフランス語で街並みもご飯もフレンチ調で異国に居て更に異国という不思議な感覚を味わいとても面白かったです。

II．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学先でできた友人と共にトロントとケベックに旅行をしたことが最も楽しく思い出に残っていることです。私は同志社女子大学から 1 人でカナダに行ったので、他の留学生と仲良くなれるかと不安を抱えていたのですが想像以上に優しく楽しい仲間に恵まれ、その仲間と共に旅行ができたのがとても嬉しかったです。私は友人と海外旅行をしたことがなかったので、全て自分たちで飛行機やホテルを取り旅程を組むという経験が新鮮でした。いろいろハプニングもありましたが、みんなで乗り越え楽しい旅行をすることができてとても嬉しかったです。また、留学生全員の仲が良く、特にグループができたり喧嘩が起きたりということはほとんどなく、本当に良い仲間に恵まれたと心から思います。異国の地で共に 3 か月過ごした仲間は一生の友人です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

一人で一時間セミナーをするための準備が一番苦労しました。英語を人前で話すことですら緊張するのに、一時間も社会的な問題について発表しなければならないというミッションは精神的にもかなりきつかったです。特に大変だったのは、事前の研究とパワーポイントの作成、聞き手への 10 個の質問の作成です。自分の取り組む社会問題について、まず疑問点をいくつか出し、それをもとに研究し、パワーポイントを作りました。その後発表原稿を作ったのですが、原稿をずっと見ながら言うのはあまりよくないと先生から言われたので、途中から自分でその場で考えて英語で話す挑戦もしました。セミナーをする上で特に懸念していたことは、聞き手の質問に対する返答をその場で考えて英語で答えることでした。咄嗟に相手の意見に対する自分の意見を英語でまとめるということはかなり難しかったですが、非常にいい経験となりスピーキング力の向上に繋がりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アクティビティの一環でハリファックスを訪れた際に宿泊した地元の寮のトイレとシャワールームが

男女共用だったことにカルチャーショックを受けました。誰でも自由に使えることになっていて、シャワールームには更衣室もついていなかったので、非常に周囲に気を配りながら男子大学生の友人たちと連絡を取り合ってシャワーやトイレの使用時間を決めました。カナダ人のアシスタントの方は、これらの施設の男女共用はカナダでは比較的当たり前だと言っていたので、日本人学生の私たちはとても驚きました。また、チップ文化は日本にないですがカナダでは当たり前にどこでもあったので新感覚でした。チップの割合を自分で選ばせてもらえるお店もありました。表示価格をそのまま捉えてレジへ持っていくと、チップのせいで想像以上に高額だったという体験も何回かしました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンの持参は必須です。タブレットとキーボードをセットで持ってきている人もいましたが、タブレットでは大学のコンピューター端末に接続できる差し込み口がなくパワーポイントを教室のスクリーンに映し出せない事があったので、ある程度の端末と繋げることができるパソコンを持っていくべきです。また、寮内で履くために簡易スリッパを持っていくと便利です。スリッパは留学期間中の旅行の際にも寮やホテルの部屋を移動する際にもとても役に立ちました。他にも、防寒具は多めに持って行った方がいいです。大学は立地的に海に近いこともありほぼ毎日爆風が吹き体感温度が 5 月でも一桁台でしたし、夏になってもカーディガンを着るぐらいの気温でした。また爆風により乾燥がひどいのでパックを持っていくことをおすすめします。ほとんどの留学生が持ってきていましたが、日本の薬も持っていくといいと思います。何人かの留学生は 1 度体調を崩していたので、薬の常備は必須です。ある程度のものは地元の薬局や雑貨店で買うことができますが、日本と比べて物価が高いのでなるべく日本から持っていくといいと思います。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

私は英語で自分の言いたいことを表現することができずにずっともどかしい思いをしてきたため、この課題を克服するべく留学に挑戦しました。留学の初めの方は、外国人の英語の流暢さや会話のテンポについていけず、自分から英語で話しかける自信が全くなく消極的になっていました。また、初めの 1 か月は忘れた単語を思い出すのに必死で、その単語を思い出せないと会話が進まないという状態でした。しかし 2 か月目くらいから、自分の言いたいことを直接表現する単語を思い出せなくても、他の単語や似たようなニュアンスの単語で言い換えて自分の言いたいことを表現できることに気付き、それから会話を続けることができるようになりました。目標にしていた英語で言いたいことを言えるようになり、今は英語圏から同志社女子大学に来た留学生とも積極的に英語で会話をすることができるようになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学中は、自分の身の安全など普段日本で過ごしている時は特に気にしないで良いことにも気を配りながら生活をしなければなりません。そしてその中で語学力の向上を目指さないとならないので生活面でも精神面でも不安に思うことがあると思いますが、周りの友人やとても親切なアシスタント、現地の

学生、先生たちに頼れる内容については頼ることで、安心して楽しい留学生活を送ることができると思います！また、はじめの方はなかなかスムーズに英語を話せず聞き取れず焦る気持ちが出てくるかもしれませんが、２か月目くらいから生活に慣れてきて英語力にも少しずつ自信が付いてくるようになります。まずはカナダでの異国生活で異文化、価値観の違い、海外ならではの料理を存分に楽しんでください！

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後の将来の夢はまだ具体的には決めていませんが、大学卒業後、地元の東京に戻って働きたいと思っています。東京は国際色豊かな都市で英語を使う場面も多いと思うので、この留学経験を活かして働きたいと思っています。就職活動では、留学を通して得た経験や英語力を武器にしたいと思います。更に、これからゼミでカナダの異文化社会について研究しようと考えているので、留学で実際に見聞したカナダの実情をゼミでの研究で活かしていきたいと考えています。また、最終目標として大学卒業時までに TOEIC を 800 点以上取ります。

Ⅴ．写真



最後の授業に仲間と先生と撮った写真です。３か月間私たちの英語力を向上させるために尽力してくださった先生方２人にとても感謝しています。カナダ特有の言い回しや、日本と大きく違った異文化についてもジョークを交えながら教えてくださることもあり、大変な授業もありましたが楽しい授業もたくさんありました。



アクティビティでプリンスエドワード島を訪れた際に、赤毛のアンのコスチュームを着た時の写真です。留学前にこのコスプレを男子も全員必ずやると聞いていたのでとても楽しみにしていました。私は小学生の頃から人生で１度はプリンスエドワード島に行きたいと懇願していたので、その夢が実現して本当に嬉しかったです。この島で人生で初めてロブスターを１匹食べました。日本ではなかなか食べる機会が無いので食べることができて良かったです。味はとても美味しかったです。